週間展望・回顧（ポンド、加ドル）

September 20, 2024

加ドル、10 月会合で大幅利下げ観測

◆ポンド、英中銀の緩和ペースは速まりづらい
◆加ドル、10 月会合で大幅利下げ観測高まる
◆日米金融政策を消化しながらの取引続く

予想レンジ
ポンド円　186.00-193.00 円
加ドル円　103.50-107.50 円

9 月 23 日週の展望

ポンドは対ドルでは米国、対円では日本の金融政策を消化しながら、英中銀の緩和ペースが速まりづらいとの思惑から下値は限定的となりそうだ。19 日にイングランド銀行（BOE）が公表した金融政策委員会（MPC）の結果は、「政策金利 5.00%で据え置き」と市場予想通りだった。英中銀は 8 月に約 4 年半ぶりの利下げに踏み切ったものの、一旦は様子見スタンスを取った。注目された MPC メンバー9 名による投票では据え置き支持が 8 名を占め、ディングラ委員のみが追加利下げを主張。前回は意見が分かれたものの、今回の据え置きは MPC の総意と捉えてよいだろう。

中銀声明では「今後数カ月で段階的な利下げが可能」との言及はあったものの、「インフレが低水準を維持することが極めて重要」とも指摘された。インフレの足もとの状況を見ると、8 月消費者物価指数（CPI）は前年比総合が予想通り 2.2%上昇と、中銀インフレ目標 2.0%をわずかに上回る水準だった。しかしながら前年比コアは 3%台で想定以上に加速し、金融当局が注視しているサービスインフレ率も 5%台で前回より上振れた。一部インフレの進行は一時的との見方はあり、市場は年内残り 2 会合で 0.25%ずつの利下げ予測を維持したままだが、先行きの更なる金利低下織り込みには慎重な雰囲気が広がっている。

英経済指標では、製造業とサービス部門の 9 月購買担当者景気指数（PMI）速報値が発表予定。

加ドルは上値を追いづらい展開か。カナダ中銀（BOC）による大幅利下げ観測が浮上し、加ドルの重しとなっている。17 日発表の 8 月 CPI は前月比が 0.2%低下し、前年比も予想より鈍化の 2.0%上昇と 2021 年 2 月以来の低水準を記録。BOC のインフレ目標 2%を達成し、中銀が重要視する CPI 中央値やトリム値も 2%台で減速しており、金融緩和を進めやすい環境が整ってきた。

またカナダ経済に大きな影響を与える米国では、米連邦公開市場委員会（FOMC）が 0.50%利下げを決定。マックレム BOC 総裁は「必要に応じ、大幅な利下げを行う可能性」に言及しており、米国に追随して 10 月会合で 0.50%の金利引き下げとの見方が広がりつつある。

なお米国の政策だけでなく、日銀金融政策決定会合や植田日銀総裁の会見内容を踏まえた値動きも加ドル相場に影響を与えるだろう。カナダ経済指標は 7 月国内総生産（GDP）が発表予定。

9 月 16 日週の回顧

ポンドは底堅い動き。対円では週明け 183 円後半まで売り先行も、ドル円の切り返しにつれて反発。8 月英インフレ指標で一部データが上振れたことや、堅調な株式市場を受けてリスク志向ムードが高まったことなども支えとなった。英中銀の金融イベントを経て全般ポンド買いが進むと、一時 190 円前半まで上昇した。ポンドドルは 1.31 ドル前半で下値を固め、FOMC や英 MPC で上下に大きく振れながらも、1.33 ドル前半と約 2 年半ぶりの高値圏まで上値を伸ばした。

加ドルも対円では 102 円後半まで売り先行も、一巡後は他クロス円とともに反発して週後半には 106 円手前まで持ち直した。対ドルでは 1.36 加ドル半ばから 1.35 加ドル前半で上下した。（了）

本レポートはお客様への情報提供のみを目的として作成したもので、売買の勧誘を目的としたものではありません。実際に投資をなさる場合の最終ご判断は、お客様ご自身でご判断なさるようお願い致します。本レポートを原因とするお客様の直接あるいは間接的損失および損害については一切補償には応じません。 Copyright DZH Financial Research, Inc.